

外国人留学生入学試験問題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。解答は、解答用紙に記入すること。

古典派経済学においても、生産要素である土地や鉄鉱石・石炭などの資源は有限で、将来的には資源の制約が深刻になるだろうと予想していました。そうすると、いつまでも無尽蔵に資源を使える経済が続くとは限らないので、① 利潤率が低下して儲けが少なくなって、資本② 蓄積が止まる時代が来るだろう、ゼロ成長の時代が来ることを予想していました。これが^(A) 定常状態です。ミルは著書『経済学原理』の中で、ゼロ成長でかまわない、経済的に豊かになるのはこの程度でいいのではないかと、もっと人間は働くだけでなく楽しい生活を送ればいいのではないかと書いています。人口と資本が一定の中で、環境の重大な悪化を生じさせない、教育、芸術、宗教や基礎科学研究、運動競技、社会的交流などの活動で人びとは幸せになるとミルは考えていました。今に引きつけて言えば、教育と③ 余暇の充実を主張しているというのが私の解釈です。

しかし、成長率がゼロになるのは困るという主張も当然あって、教育水準を高めて労働生産性を高める、技術進歩で生産性を向上させて、資源制約を④ 突破するという考え方が出てきます。これが^(B) アルフレッド・マーシャルの考え方です。

マーシャルは、国民全員に読み書き・計算の能力を与えれば、きっと有能な労働者になるからと、教育の義務化を提起しました。当時のイギリスがまだ義務教育の時代ではなかったことを考えれば⑤ 画期的です。また技術進歩のために高等教育、あるいは職業訓練を拡充すべきとも述べています。学校教育や職業教育を充実することによって、国民の労働生産性が高くなり、経済成長率が低くなることをある程度阻止出来るという考え方は、今でも先進国や成熟経済において重要と考えられています。実は日本経済をもし活性化したいのであれば、技術進歩率と労働生産性を高める必要があります。そのためには、教育と技術の水準を高める方策が効果的と私は思っています。

(中略)

現在の定常時代で、暮らしの質を測る試みがフランスで行われました。サルコジ前フランス大統領が、J・フィットウシ、ノーベル経済学賞を受賞したアマルティア・セ

んと、J・E・スティグリッツを集めて、暮らしの質を測る「サルコジ委員会」を組織しました。その委員会の勧告は七つあって、

勧告1 物質的な幸福度を評価する際、生産よりも消費と所得を見るべきである〔GDPよりもNet National IncomeないしNet Family Income〕。

勧告2 家計の視点を重視せよ。

勧告3 財産（wealth）とともに、所得、消費を検討せよ。

勧告4 所得、消費および資産の分配をもっと重視せよ。

勧告5 市場外活動にまで、所得の計測範囲を広げよ。

勧告6 幸福度は多くの次元からなる。

①物質的な生産水準（所得、消費および財産）／②健康／③教育／④仕事を含む個人的な諸活動／⑤政治への発言と統治／⑥社会的なつながりと諸関係／⑦環境（現在および将来の諸条件）／⑧経済的および物理的な安全度、などです。

勧告7 暮らしの質に関する指標は、それが対象としているすべての次元において、不平等を包括的に評価すべきである。

勧告1から4を要約すれば、ものの〔ア〕だけではなく国民の〔イ〕、それも家計が重要であり、その家計の中でも〔ウ〕が重要で、次いで〔エ〕、すなわち格差の問題が大事であるという、これは非常に新しい提言です。これまでの経済学が〔ア〕、ないし企業の活性化をもっとも重視してきたことへの反省と警告を秘めています。

それから5では、家庭の主婦の無償労働、あるいは環境問題など市場外活動における生活の〔オ〕をどう評価したらいいかということを考慮して計測せよということです。6では、生活の〔オ〕を測るにはどういう変数を使えばいいか、八つの変数を挙げています。7は4と関係しますが、〔イ〕〔エ〕やその他のことに格差があるなら、これは不平等である、人間の生活の〔オ〕を測定する時には、不平等という問題を考慮しようというのが新しい主張です。

【出典】橘木俊詔『「幸せ」の経済学』（岩波書店、2013）131～138頁

※設問作成にあたり、文章の一部を加工しました。

設問1 ①から⑤までの漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

設問2 (A)の「定常状態」とは何か、50字以内で書きなさい。

設問3 (B)のアルフレッド・マーシャルの考え方を100字以内でまとめなさい。

設問4 [ア] から [オ] に適切な語を「サルコジ委員会」の勧告の中から抜き出して書きなさい。

設問5 二重下線部の考え方について、あなた自身の意見を400字以内で論じなさい。